



# Light Up Rotary

第2780地区  
大磯ロータリークラブ



2014～2015年度RI会長  
ゲイリー-C. K. ホアン

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

★事務所：神奈川県中郡大磯町国府本郷546大磯プリンスホテル内 TEL：0463-61-1111(木) TEL/FAX：0463-36-2255

★例会：毎週木曜日 12:30～13:30 大磯プリンスホテル TEL：0463-61-1111 FAX：0463-61-6281

会長 守屋 紀忠

会長エレクト 片野 一雄

幹事 井上 浩吉

## 第2305回 夜間例会

平成26年11月20日 (晴) No.19

■司会：大藤 勉

■点鐘：守屋 紀忠

■合唱：我等の生業

◇プログラム ・11月27日：大堀昭二さん・12月4日：ゲストスピーカー原貫太さん・理事会

◇出席報告

例会	会員数	出席数	出席率	メークアップ	修正出席率
2305回	19(17)	12	70.59%	—	—
2233回	19(17)	10	58.82%	—	—

◇欠席者(5名) 小林、宮澤、石山、太田

田中さん

◇メークアップ(0名)

◇ゲストスピーカー

・中村正樹さん(財団学友)

◇おめでとうございます



### 結婚記念日祝

斉藤正淳さん(10/28)：

結婚祝などというものは20年くらいして忘れてしまうもので、花が来てから、いやあ今日は大変だと言うことで、取って付けたような挨拶を家内にしました…。結婚して55年になります。家内と知り合って58年、「お前いい女だったなあ」とお世辞を言っておきましたけど…(笑。ご馳走さまです!!)。どうも有り難うございました。

井上浩吉さん(11/12)：



結婚祝い有り難うございます。53回目の記念日になります。もうどっちでも良いやと言うことで…(笑)。55回目の結婚祝に向けて…と家内と顔を見合わせました。



誕生日祝：

斉藤正淳さん(11/7)  
僕は誕生日、結婚記念日と繋がっているので困っちゃう…。1週間後は家内の誕生日なんです!(おめでとうございます!!)

有り難うございます。

### ◇会長報告

守屋 紀忠会長

当月は財団月間で、財団学友の中村正樹さんに卓話をお願いしましたので、夜間例会となりました。



1. 宿場まつりに参加、ご苦労様でした。朝は雨でしたが日中はよく持ちました。しかし朝の雨のため出演団体の2団体が来なくて、少しゆったりしたスケジュールで運営できました。

2. ロータリー財団奨学生申請者小玉千織さんについて：RI第2780地区ロータリー財団2015-16年度「ロータリー奨学生グローバル補助金」候補者として、10月30日に面接(守屋、井上、百瀬、河本)をし、推薦しました。結果、11月10日に候補者として決定されたと通知がありました。

11月16日、カウンセラー百瀬さんと河本さんが地区のオリエンテーションに出席されました。

3. 理事会報告：

・宿場まつり朗多里座隣接3軒、駐車場・更衣室2軒にお礼として”さつまあげ”贈呈します。

・年次総会：家族例会

日時：12月18日(木)18時～

会場：大磯プリンスホテル「パティオ」

会費：3,000円 家族も同額

・新会員会務分担：野田新会員を親睦委員に

・大磯警察よりのお願ひ：

オレオレ詐欺防止キャンペーン用のシール作成の協力金5万円をスマイルボックスより拠出する。

・ロータリー財団寄付について：

会員1名あたり1万円以上の寄付を募ります。

(ファックスでお願いします)

4. 第8G会長幹事会報告：

・高校生支援金(奨学金)は江南高校1年生(昨年父親死去、母子家庭、藤沢在住)に決定しました。

人頭分担金300円納入。

・青少年交換留学生候補の大原中学校生徒は補欠となりました。

・IMキャラバン隊が12月11日の例会に来磯されます。

◇幹事報告

井上 浩吉幹事

1. 2016年RI規定審議会地区提案のための 選挙人会の結果報告書(既報)

2. 米山学友会主催「国際交流会の開催案内」

3. 例会変更

・平塚RC、秦野中RC、

4. 回覧

・ハイライト米山176号

・週報志木RC

・宿場まつり写真

☆大藤 S A A : 食事は天井とうどんです。



◇一言：大磯の歴史—大磯海岸

井上浩吉さん



相模路のゆるぎの浜の真砂なす  
 子らはかなしく 思われるかも  
 (万葉集、詠人知らず)

当時防人<sup>さきもり</sup>という制度があり、東北の人が九州の壱岐、対馬の防衛に当たるために東北から歩いて九州まで行きました。一人ではなく集団で歩いていたと思いますが、大磯のこゆるぎの浜を散歩をしているときに、故郷に残した子供を思って、波打ち際の砂利が行ったり来たりする情景を見て自分の子を愛おしく思って詠った歌です。”かなしく”は悲しいと言うことではなく愛おしいという意味です。

そのこゆるぎの浜というのは大磯の照ヶ崎海岸からロングビーチ辺りを言います。戦争中この海岸線を映画に使った監督がいます。山本嘉次郎という監督が「ハワイ・マレー沖海戦」という映画を作った時に、この海岸線がマレー半島の海岸線によく似ているというので、スチール写真を撮って、それを背景に飛行場の情景に使ったという過去があります。”真砂”は砂利のことです。この砂利は非常に価値のある砂利で、五色石とも言います。これが江戸時代お土産になりました。篩<sup>ふるい</sup>を使って何種類かの石を選別して、麦わらで作った俵(カマス)に入れて(約30Kg) 売買していました。江戸時代の宿場の記録を見ますと、紀伊の徳川家がお土産に何十俵も買い上げて持って行ったという記録があります。

熱帯魚を飼った方は分かると思いますが、熱帯魚屋さんで砂利を下さいという「あ、大磯のですね」と言われます。それくらい有名な砂利であります。今は採取が禁止されています。

(つづく)

## ◇委員会報告

### ☆スマイルボックス

笹尾 政儀さん

・守屋紀忠さん：財団学友 中村正樹様、卓話よろしくお願ひします。誕生日祝斎藤正淳さん結婚記念日斎藤正淳さん井上浩吉さんおめでとうございます。

・井上浩吉さん：結婚記念日のお花ありがとうございます。斎藤先生誕生日おめでとうございます。

・河本親秀さん：斎藤先生お誕生日・結婚記念日おめでとうございます。井上さん結婚記念日おめでとうございます。財団学友中村様卓話楽しみにしております。

・斎藤正淳さん：結婚記念日、それと誕生日祝ひ有難うございました。いたずらに馬齢を重ねてます。

・新宅文雄さん：・斎藤ドクター誕生日ご結婚記念日おめでとうございます。・井上さんご結婚記念日おめでとうございます。・財団学友中村様卓話よろしくお願い致します。

・片野一雄さん：久しく御無沙汰申し上げました。体調を整えておりますので調子が出てくれば頑張ります。

・原卓さん：斎藤さんお誕生日おめでとうございます。井上さん結婚記念日おめでとうございます。

### ☆鈴木勝さん：宿場まつりのお礼

草刈りから前日の小屋がけ、当日とお出で頂き有り難うございました。当日は朝雨が降って



が運良くだんだん晴れてきてまして日中は日焼けするほど良い天気になって大成功に終わりました。落語家の昇之進さん=井上さんのお陰で招べた=は流石真打ちで、皆さんが納得できる落語をやってくれました。大磯の役場の五十嵐さんが東海大学の落研の卒業生で、「俺の後輩だよ、これから会いに行つて納得できる話だと言ってくるよ」

と言ってくれました。無事に終了しましたので改め

て感謝申し上げます。有り難うございました。

大藤さん：昇之進さんの故郷・湯田中は大磯開発の恩人、松本順が温泉で企業することを進めたと言うことで、大磯とは縁があります。

鈴木さん=湯田中には町の広報看板が掛かっている大磯との繋がりを記載しています。

### ☆河本親秀さん：小玉千織さんについて

会長から話がありました小玉千織さんのグローバル奨学生合格に伴う地区オリエンテーションが11月16日にあり、百瀬さんと一緒に出席しました。

オリエンテーションには合格者だけでなく、補欠の方もスポ



ンサークラブの方と出席されておりました。グローバル奨学生合格者は2名、補欠1名。地区奨学生合格2名、補欠2名計7名(全員女性)とそれぞれのカウンセラー、会長などが出席されておりました。

地区財団補助金委員会の山田雅孝委員長、柚木副委員長他のメンバー多数が出席、今後の手続き留学先での心構えの話があり、その後、留学生の自己紹介、留学の目的や将来の希望などの発表がありました。グローバル奨学生のもう一人の方はアメリカ留学で感染症対策などの公衆衛生の仕事を目指されるそうです。

地区からは出発前にスポンサークラブで必ず卓話をするよう言われています。我がクラブでも小玉さんを皆さんに紹介する必要がありますが、小玉さんは12月20日にロンドンへ出発する必要があるため、それまでに例会に来て頂くことにしております。卓話のスケジュールを変更する必要があると思いますが、どうぞご協力お願いします。(12月11日に決定されました)



例会場からの眺め

財団学友 中村 正樹さん



みなさん、はじめまして、2011-2012年度国際親善奨学生の中村正樹と申します。私は2780地区のふじさわ湘南ロータリークラブからご推薦いただき、2011年夏より2年半ほど、米国のカリフォルニア大学バークレー校に留学し、大学院で経営学と公衆衛生学を勉強しました。

私はもともと母方の実家のありました長崎県の対馬生まれですが、生まれてすぐに神奈川県に引っ越し、物心ついてから高校を卒業するまで藤沢で育ちました。その後、千葉大学に進学し薬学を学び、キンビールで医薬事業に関わり（キンビールは薬もつくっています）、7年半ほど東京で働きました。私は、大学で薬学、社会人になってからは製薬事業という、比較的専門性が高く狭い世界でずっと生きてきたこともあり、より広い世界に触れるべく、ロータリーの支援を受け留学をしました。

私が留学を通して得た、学んだことのうち、最も大事なことをふたつ紹介したいと思います。ひとつが非常に幅広い背景を持つ同級生や友人で、もうひとつは自分の立ち位置というものです。もちろん英語や専門知識も得ましたが、やはり最も価値あると感じたものはこのふたつです。

ひとつめの「友人」については留学した方であればみなさん得るかと思います。私もそのとおり、非常に多くの友人を得ることができ、卒業後も交流は続いています。私の通っていたカリフォルニア大学バークレー校のビジネススクール（経営大学院）とい

うところは1学年240名と比較的小さく、日本人は私を含めて4名、それに加えて高校からずっと日本にいる中国人が1名、でした。背景はそれぞれ異なり、例えばひとりには将来宇宙ビジネスがしたいという壮大な夢を描いてパークレーにやってきました。この240名のうち、薬学の出身者はほとんどおらず（おそらく私だけ）、とても幅広い背景を持った同級生に囲まれました。その他、カリフォルニア大学バークレー校内の他の大学院にも日本人は留学しており、非常に仲良くなることができました。私がとても親しくさせてもらった方のひとは、日本の大学時代に落語研究会、通称落研に所属していた官僚で、夏休みのインターン先であるハワイで地元の子どもの落語を披露したと言っていました。日本人留学生と言っても非常に幅広い背景を持った友人に出会うことができました。

そして私にとってかけがいのない存在だったのが同居人です。米国の大学生はルームシェアをするのが一般的であり、私も人生初のルームシェアに挑戦しました。まず、ビジネススクールに合格すると、自主的に合格者同士がインターネットを通じて同居人を探し始めます。お互い会ったこともないので、自分のプロフィールや好みを公開します。つまり性別や国籍、同居人の数や家賃の希望や喫煙の有無を掲載し、ひと言メッセージを付け加えます。余談ですが、大半の男性は「同居人の性別は問わない」と書き、女性は「女性との同居を希望」と書き、男性のささやかな夢はこうしてそっと破れるのを見ました。また、ひと言付け加える際に多くの同級生が「私はきれい好き」「家でうるさくしない」とアピールするのですが、日本人の感覚からすると、実際にそのとおりの人に出会ったことがありません、、、

こうして私も同居人を見つけたのですが、1年目はインド人同級生2人とアパートに同居し、2年目はそこに別のインド人同級生と米国人同級生が加わり、一軒家を借りました。さらに、パキスタン人の同級生がしょっちゅう泊まりにきており、とても賑やかな同居生活となりました。特にインド人の同級生は非常に優秀で、さすが10億人以上いるインド人の中から選ばれた人材と思わせる程でした。私が英語に四苦八苦しながら時間をかけて勉強をし、何とかB（日本でいう優良可のうち可に近い）の成績を取っていたのに対し、彼らは少し勉強するだけでAマイナスくらいは簡単に取ってしまっていました。ただし、そんな彼らは勉強ばかりしていたわけでもなく、

就職活動やプライベートを充実させるために、勉強は効率よく終わらせていました。ですので、全教科Aを狙っていたわけでも実際にとっていたわけでもなく、ある意味割り切って勉強をしていました。一方、頭のすごくいい人にありがちかもしれませんが、変なところで抜けていたりもしました。印象的だったのは、インド人同居人のひとはよく鍵をなくしていました。とある日に鍵をなくしてしまったらしく、私た自分の持っていた鍵を貸し、彼は外出したのですが、そのうち彼から「マサキ、今家にいるか？」と連絡がきたので、何かと思えば貸した鍵をなくしてしまったそうです。同じ日に二度も鍵をなくしてしまうなんて、なかなかのおっちょこちょいです。彼らのちょっと抜けた話は他にも数多くあり、私の留学生活に多くの笑いをもたらしてくれました。



また、インドやパキスタンと言えば宗教のことがあります、この4人はびっくりするくらい信心深くありませんでした。彼らがお祈りをするのを見たこともありませんし、酒もタバコも特に規制している様子はなく、宗教とひとくちに言っても幅があるのを感じました。幅があると言えば、食事ですが、インド人同居人のひとりのガールフレンドが一番厳しく、いわゆるビーガンと言われるもので、肉も魚も卵も乳製品も全てダメでした。次に厳しかったのが、そのボーイフレンドであるインド人同居人で、肉と魚がダメでした。彼は、卵は食べるのですが、彼の母親はダメらしく、インドの実家で料理をしてもらう時は、母親は匂いをかがないようにマスクをしながら調理しているそうです。そして、次が別のインド人同居人で、卵と乳製品はOKです。バークレーに留学する前に米国で働いていたこともあり、それだけだとなかなか食事が大変だったらしく、自主的にチキンもOKにしていました。魚はダメなはずなのですが、「スシは大好き」と言っており、どういうルールなのかよくわかりませんでした。そし

て、もうひとりのインド人同居人とパキスタン人は基本的になんでもOKです。そのインド人はムンバイ出身なのですが、ヒンズー教が盛んなインドでも、ムンバイにはビーフステーキ屋があつたりするようです（他のインド人曰く、ムンバイはインドの中でも独特である、とのこと）。また、よく家に転がり込んでいたパキスタン人同級生はイスラム教徒ですが、豚肉も食べられないわけではないとのこと。実際に一緒に行った旅行先では私の頼んだ豚肉料理を少し食べていました。彼らに共通するのは、食事制限と宗教は特に関係ない、ということです。親は宗教上の理由で食事を制限していたのかもしれませんが、同級生自身は小さいころから肉や魚が自宅の食卓に並ばず、食べてこなかったもので、今さら食べる気にもならない、ただだそうです。ちなみに肉を食べない同居人も私が肉料理をしたフライパンを使うことは特に気にならないようで、そのあたりは柔軟に対応しているようでした。そんな同居していた同級生とはとても仲良くなり、冬休みにグアテマラと一緒に旅行したのですが、食事制限のせいで現地の食事は楽しめず、旅の醍醐味をひとつ味わい損ねたのが玉にキズでしたが、彼らと一緒に生活をした期間は私にとって宝物です。

もうひとつ学んだことが「自分の立ち位置」についてです。最近ビジネス等で「強みに特化する」なんてことが言われますが、私の場合はそんなに格好いいものではなく、「なんとかクラスで埋もれないようにする」ための苦肉の策であったことは否めません。カリフォルニア大学バークレー校のビジネススクールは1学年240名ですが、ひとクラス60名で4クラスに分かれており、この60名が同じ顔ぶれで1学期をともに過ごします。さらにこのクラスは強制的に5名がひとグループとなり、一緒に宿題をします。因みに私のグループは米国人男性ふたり、米国人女性ひとり、メキシコ人女性ひとりでした。私は日本ではけっこう身長が高い方に入りますが、このグループでは一番小柄だったと思います。

さて、授業の方ですが、ビジネススクールでは授業中の発言が成績の大部分を占めており、英語が得意ではなかった私は大変苦労しました。私も留学する身でしたので、日本で英語をしっかりと準備してから渡米したつもりですが、授業がさっぱり理解できず、開始2週間で学務課に駆け込んだのを今でも覚えています。何とか一学期目を生き残ったものの、授業内容はほとんどわからないまま終わってしまったの

で、冬休みにマーケティングの教授に「どんな復習をしたらいいだろうか？」と相談したところ、「マサキ、マーケティングの復習はいいから英語を勉強しなさい」と言われてしまいました。一念発起した私は、日本でも少し流行ったフレンズというTVドラマのDVDを一式買い、冬休み中に全240話を見てから、年明けの新学期に臨みました。新学期では一部の授業で「英語が聞こえる！」という経験をしたので、留学中は英語「で」勉強はもちろん、ずっと英語「の」勉強も続けました。英語のできない代表は日本の他に韓国人であり、彼らとは見えない絆で結ばれ、仲良くなりました。

こんな英語のできない私ですので、勉強も遅れがちになり、クラス内での発言が目立つことは到底叶いませんでした。そこで、私は話す内容を工夫しました。といっても高度な内容を話すのではなく、面白いことを言うように心を砕きました。例えば、一学期目にはPublic Speakingという卓話の練習のような授業があるのですが、英語の流暢さは諦め、とにかく面白いネタを考えました。幸い、米国は日本人からすると笑いに対するハードルが低いようで、私の考えたネタもしっかり受けていました。こうして、なんとか自分の存在を少しずつ同級生に認めてもらいました。

また、余談ですが、これから留学しようと考えている日本人男子に悲報があります。米国では、日本人男子は全くモテません、、、私も同様で、もしかしたら海外で彼女が、という私の儂い夢はあっさりと破れることになりました。一方、日本人女性は大いにモテモテで、私の同居人も「マサキ、一学年上の〇〇を紹介してくれ」といった形で学年の枠を越えて大いに人気者だったようです。

さて、そんな中、日本人のプレゼンスを上げる絶好の機会が日本の文化紹介です。私の通っていたビジネススクールでは、一学期目の途中に留学生が自国料理を振る舞うというイベントがあります。我々日本人留学生はパークレーにあるタカラ酒造の工場に出向き日本酒を安く仕入れ、地元の日本スーパーでマグロを買って寿司をつくり、またベジタリアンのために「タコ抜き」のたこ焼きをつくり振る舞いました。その甲斐あり、日本ブースにはどこよりも長い長蛇の列ができたのを覚えています。またきれいな日本人はその後の片付けも完璧にこなし、学務課に「日本人はいつもきれいに片づけてすごい」

と評価いただきました。こうして少しずつ顔を覚えてもらった我々は、一年目の終盤の春休みに日本旅行を計画しました。これは各国出身の留学生が自主的に旅行を組み、自腹ではありますが同級生やその伴侶を海外旅行に招待するものです。例えば冬休みにはブラジル旅行が開催され、ブラジルらしく每晚のように飲んで踊っていたそうです。春休みには日本のほかにイスラエル旅行が計画されました。このイスラエル旅行の目玉は、大統領に会える、という大層なものでした。我々は総理大臣に会えるなんて特典は持っていなかったもので、おもてなしの精神を前面に出して売り込み、40名弱の同級生やその伴侶を連れて一週間の日本旅行に出ました。外国人を何十人も連れて旅行に出る際の心配事のひとは遅刻です。そこで数十ページにわたる旅のしおりの最初に「日本では遅刻は犯罪です」と日本ならではの(?)のルールを記載しました。また、この旅行では箱根にも一泊し、色々な日本の宴会芸を見せることになりました。我々はある日本人同級生の提案でソーラン節を披露することにし、十代の学部生に混じり夜な夜な大学キャンパスで練習したのはいい思い出です。こうして、怒涛のように過ぎた一週間を経て、旅は大盛況に終わりました。幸い我々は「日本って面白い、日本人ってすごい」という評価を得て、その噂は他の同級生にも広まり、みんなに顔を覚えてもらい、その後の学生生活は随分と楽しいものになりました。また、その噂は下の学年にも広まり、それからというもの、日本旅行は春休み恒例となり、大変な人気を博していると聞いています。

こうして二年半の留学を経て、私は数多くの友人を手に入れ、また自分が生きていき目立つための立ち位置というものを考えることになりました。これは自分の人生にとってかけがいのない財産です。国際親善奨学生は、今でも名前を変えて継続しているとお聞きします。ぜひ、今後も私のような海外へ飛び立ちたい人を支援していただき、ひとりでも多くの日本人が貴重な海外経験ができるよう、ご支援いただければ幸いです。どうもありがとうございます。

